

「1型糖尿病患者の患者背景に関する東海臨床多施設共同研究」：医学情報の研究利用について

名古屋大学医学部附属病院糖尿病・内分泌内科では、患者さんに対して最良の治療を提供することを目的に、疾患に関するさまざまな研究を行っています。

1型糖尿病は、血糖降下作用のある「インスリン」を製造している臓器である膵臓の、 β 細胞が破壊され、体内からインスリンが枯渇し、その結果、インスリン注射の治療が絶対的に必要となってくる病気です。1型糖尿病においてはインスリン分泌が枯渇してしまうことによる、血糖管理自体の難しさに加え、発病した時期によっては病気であることを受け入れることができず、治療から離脱してしまうこともあります。2型糖尿病の人と比較し、長期で見た場合に合併症が進行していないかが心配されるところです。しかし近年、インスリン製剤の進歩や持続ポンプ療法・持続血糖観察機器の普及など、1型糖尿病患者さんにとってはより良い治療環境が整いつつあるように見えます。医療技術の進歩が1型糖尿病患者さんの血糖コントロールや生活の質の向上に本当に寄与しているのか、大変興味深いところです。

さらに、1型糖尿病は他の自己免疫が関係した病気を併発することも多いことが知られています。甲状腺、副腎、骨カルシウム代謝など、大規模な継続的調査で、それらの病気の分布や傾向などが明らかになることが期待されます。

当研究室の関連病院は、全国的にみても突出した数を広範な地域にもち、1型糖尿病患者さんの通院患者数や疾病状況の把握、調査に努めています。今回、上記の項目について検討を行うべく、東海地区における1型糖尿病患者の調査の実施を計画いたしました。この研究を介し日本人における正確な1型糖尿病の病気の仕組みの解明をすることで、診断、予防、早期治療法の確立が進むことが期待されます。

調査対象となるのは研究元である名古屋大学医学部附属病院糖尿病・内分泌内科およびその関連病院に2003年以降に通院されている1型糖尿病患者さんです。調査項目は年齢、性別、発症年齢、病型、家族歴、身長、体重、血圧、飲酒・喫煙歴、治療内容、合併症の有無および下記の血液尿検査データです。

発症時 S-CPR、GL 負荷 6 分値、U-CPR24h 尿、dB 尿中アルブミン、BUN、s-Cr 値、GOT、GPT、T-choI、TG、HDL、LDL、GA、抗 GAD 抗体値、抗 IA-2 抗体値、抗 ZnT8 抗体値、インスリン抗体価、HbA1c、骨密度、TSH、FreeT3、FreeT4、抗 Tg 抗体値、抗 TPO 抗体値、Na、K、Cl、Ca

本研究の共同研究機関は以下の通りです。

名古屋医療センター 糖尿病内分泌内科
名古屋第一赤十字病院 内分泌内科
名古屋第二赤十字病院 糖尿病・内分泌内科
地域医療機能推進機構中京病院 内分泌代謝科
海南病院 糖尿病・内分泌内科
安城更生病院 内分泌糖尿病内科
江南厚生病院 内分泌・糖尿病内科
名鉄病院 内分泌代謝科
名古屋セントラル病院 糖尿病内分泌内科
名古屋掖済会病院 糖尿病・内分泌内科
中日病院 糖尿病内科
大同病院 糖尿病・内分泌内科
総合上飯田第一病院 糖尿病内科
稲沢市民病院 糖尿病・内分泌内科
津島市民病院 内分泌科
市立四日市病院 糖尿病・内分泌内科
公立陶生病院 内分泌代謝内科
一宮市立市民病院 糖尿病・内分泌内科
トヨタ記念病院 内分泌科
岡崎市民病院 内分泌内科
春日井市民病院 内科
土岐市立総合病院 糖尿病・内分泌内科
岐阜県立多治見病院 内分泌内科
大垣市民病院 糖尿病・腎臓内科
豊橋市民病院 糖尿病内分泌内科
小牧市民病院 糖尿病内・分泌内科
中部労災病院 糖尿病・内分泌内科
東海中央病院 内分泌・糖尿病内科
常滑市民病院 内分泌・代謝内科
西尾市民病院 内分泌内科
西知多総合病院 内分泌・代謝内科
碧南市民病院 内分泌内科
半田市立半田病院 糖尿病・内分泌内科

データ上、すべての患者さんは匿名化されて管理され、これらの情報が外部に漏れることはありませんし、何らかの負担が生じることもありません。今回の研究で得られた結果に関

しては、医学的な専門学会や専門雑誌などで報告されることがありますが、その場合も患者様の個人情報などのプライバシーに関するものが公表されることは一切ありません。

本研究の調査対象の患者さんで調査に同意されない方はお申し出ください。

この件に関しまして、ご質問などがございましたら、担当医に遠慮なくお尋ねください。

名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学

説明担当者 病院助教 尾上 剛史

研究責任者 教授 有馬 寛

(電話 052-744-2187、ファックス 052-744-2212)